

弟子屈町地域おこし協力隊
それぞれの活動へ

町地域おこし協力隊の3人が任期終了を迎えました。また、1人は新たな職場での活動のため1年で退任することになりました。

3月26日には、町長への活動報告会が行われ、これまでの成果や今後の活動について報告されました。

今後、それぞれの活動に対し、皆さんの応援をお願いします。

活動報告会の様子は町公式ユーチューブチャンネルでも配信されています。ぜひご覧ください。



町公式ユーチューブチャンネルでぜひご覧ください！



大森 慎一郎

摩周メロン
生産技術継承員

平成30年4月～
令和3年3月

摩周メロン生産技術を継承！
農業を通して地域の活性化へ

自分にとって初めての土地で、初めて経験する農業はとても濃密なものでした。柔らかな親方の人柄のおかげで畑作業は楽しく、何より植物が育っていく過程やそれに対する創意工夫はとても興味深いものでした。この春からは農家としてメロンの栽培を続けていきますが、ド素人だった自分がこうして無事に就農できたのも、本場に沢山の方々のサポートがあつてこそだと実感しています。

これからは楽しむだけではなく、関わっていただいた方々の分だけ責任も背負い、一人前になることで恩返しができると思っています。3年間ありがとうございました。



吉田 祥子

エコツーリズム
活動支援員

平成30年5月～
令和3年3月

ゲストハウスを運営！
町おこしに貢献していきたい

移住してから約3年間、たくさんの方に出会い、お世話になりました。あつという間の楽しい3年間でした。弟子屈に移住してきてよかった！と心から思いますし、そう思えるのは地域の皆さんのおかげだと感じています。活動を応援していただき本当にありがとうございます！

今後はゲストハウスの運営をしながら、一事業者として変わらず弟子屈町の町おこしに貢献していきたいと思っていますので、引き続きどうぞよろしくお願いいたします。



青木 崇

エコツーリズム
活動支援員

平成30年9月～
令和3年3月

弟子屈にトレイルを！
カヌーガイドで魅力を伝える

協力隊員としては、主にトレイルの開発・整備に携わってきました。NPO法人てしかがトレイルクラブの設立、摩



安藤 心

エコツーリズム
活動支援員

令和2年4月～
令和3年3月

自然の美しさを実感！
川湯エコミューで魅力発信

硫黄山の登山をはじめ、摩周湖の水質や屈斜路湖の中島、裏摩周未踏のルートなどの各調査への同行、またカヌーやMTB、XCスキーなどさまざまなアウトドア体験を通して弟子屈町の自然のことをたくさん知ることができました。1年間ありがとうございました。

4月からは川湯エコミューシウムセンターで自然公園財団の職員として勤務します。この1年の経験を活かし、この自然の魅力、すなわち弟子屈町の魅力を一人でも多くの人に伝えるべく全力で取り組んでいきたいと思っています。これからもどうぞよろしくお願いいたします。

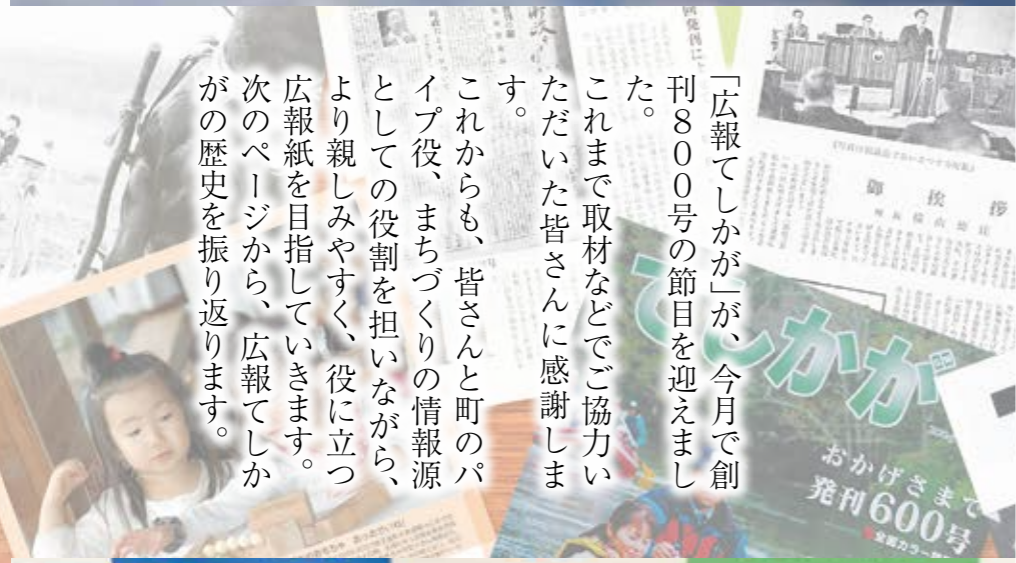
周・屈斜路トレイルのオープンなど、弟子屈にトレイルを！という想いが、ひとつの形となったことは本当に嬉しい限りです。今後はカヌーガイドをひとつの生業とする予定です。屈斜路湖、釧路川という素晴らしいフィールドを守っていくこと、伝えていくことを胸に、自分の歩みで一步一歩進んでいこうと思います。

皆さんのおかげで
広報てしかが
800号

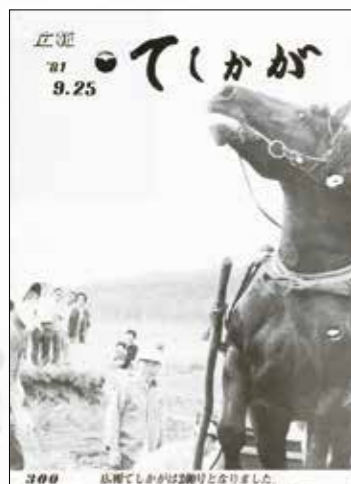
「広報てしかが」が、今月で創刊800号の節目を迎えました。

これまで取材などご協力いただいた皆さんに感謝します。

これからも、皆さんと町のパイプ役、まちづくりの情報源としての役割を担いながら、より親しみやすく、役に立つ広報紙を目指していきます。次のページから、広報てしかの歴史を振り返ります。



広報紙 プレイバック



300号

別冊の「お知らせ版」との月2回発行に。仕様は、本紙がB5判12ページの1色(モノクロ)刷り、別冊お知らせ版がB5判4ページの1色(モノクロ)刷り。
1981(昭和56)年9月25日発行



200号

200号という節目に、創刊号の写真を掲載。この年から釧路川改修が始まりました。「一般会計18億の大台に」との記事も。(ちなみに今年度は約125億円) B5判8ページの2色刷り。
1974(昭和49)年11月10日発行



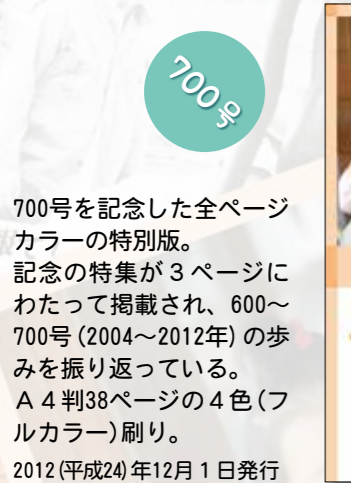
100号

名称が「広報てしかが」に。表紙に記載してある人口は1万3,509人で、現在より約6,600人多い。自衛官募集の記事に、初任給10,100円との記載。B5判6ページの1色(モノクロ)刷り。
1963(昭和38)年7月10日発行



創刊号

当時の町長・佐藤惣五郎氏による『町政だより』発刊の辞がトップを飾った創刊号。食糧配給の記事もあります。名称は「弟子屈町政だより」 B5判8ページの1色(モノクロ)刷り。
1951(昭和26)年9月13日発行



700号

700号を記念した全ページカラーの特別版。記念の特集が3ページにわたって掲載され、600~700号(2004~2012年)の歩みを振り返っている。A4判38ページの4色(フルカラー)刷り。
2012(平成24)年12月1日発行



600号

600号を記念した全ページカラーの特別版。記念の特集が2ページにわたって掲載され、500~600号(1996~2004年)の歩みを振り返っている。A4判24ページの4色(フルカラー)刷り。
2004(平成16)年8月1日発行



500号

500号を記念した特集が2ページにわたって掲載され、創刊からの45年間を振り返っている。水郷公園が全面オープンしたとのニュースも。A4判20ページの1色(モノクロ)刷り。
1996(平成8)年5月1日発行



400号

400号が新年号に当たったため、表紙と裏表紙がカラーに。昭栄小学校創立70周年などの記事。B5判20ページ。表紙・裏表紙以外は1色(モノクロ)刷り。
1988(昭和63)年1月1日発行



広報てしかが写真展を開催します！
広報てしかが800号を記念して、700号から800号までの表紙を飾った写真の展示会を、町公民館ロビーで5月1日から31日まで開催します。8年間のまちの歩みを写真で振り返ってみませんか。ぜひお越しください。

- ▼2017年
 - ▽7月号/旧弟子屈飛行場跡に新消防庁舎が完成・全道で町が初めて「エコツーリズム推進全体構想認定地域」に認定される▽9月号/阿寒国立公園が阿寒摩周国立公園に名称変更
 - ▼2018年
 - ▽3月号/「EMC通信」一時休載▽4月号/地域おこし協力隊4人の任期満了による協力隊通信特別号を掲載▽7月号/「たのしいささえあい生活のススメ」が始まる(隔月掲載)▽12月号/『むかしむかし』てしかが歴史写真館が連載終了(全338回)
 - ▼2019年
 - ▽1月号/表紙・裏表紙をリニューアル。「広報てしかが」のロゴが変わり、表紙は毎号カラーに▽5月号/当町初の認定こども園ましゅうの開園式が開催▽6月号/町公式広報番組「ムーブ弟子屈」がスタート▽9月号/「星空の街・あおぞらの街」全国大会が摩周観光文化センターで開催
 - ▼2020年
 - ▽3月号/「摩周☆スノーランド」が初開催▽5月号/全ページフルカラー化▽10月号/「KAWAa a a R U川湯」が初開催
 - ▼2021年
 - ▽1月号/新十両となった王鵬関が来町。祝賀会を開催▽2月号/奥春別小学校閉校

- ▼2013年
 - ▽5月号/弟子屈町名誉町民である故納谷幸喜さんを偲ぶ会を開催▽10月号/日置市と姉妹都市交流30周年を祝い記念式典を開催
 - ▼2014年
 - ▽1月号/北海道日本ハムファイターズ弟子屈町応援大使の谷元圭介投手が来町▽12月号/昭栄小学校閉校・更科源蔵資料を紹介するページ『原野紀行』が終了(全116回)
 - ▼2015年
 - ▽3月号/第61回北海道広報コンクールで「広報てしかが」が広報紙の部で特選▽6月号/養護老人ホーム伴和園と特別養護老人ホーム摩周が完成▽8月号/地域おこし協力隊の初着任に伴い、活動を報告する『協力隊通信』が始まる▽12月号/町産のブドウのみを使ったワイン「葡萄色の日」と「地場産和牛「摩周和牛」が誕生
 - ▼2016年
 - ▽4月号/弟子屈町地域おこし協力隊活動報告会を初開催▽7月号/町で実施している「空き家バンク」・「人材バンク」を紹介するコーナーが始まる

700号(2012年)~800号の歩み
広報紙の創刊は1951(昭和26)年。今から70年前のことです。当時は「弟子屈町政だより」という名前でした。それから12年後の1963(昭和38)年に1000号目発行を迎えます。名前も現在と同じ「広報てしかが」になります。今月号で800号。これまでの800号には、町の歴史が詰まっています。節目を迎え、充実の紙面づくりに気持ちも新たに取り組んでいきたいと思えます。